

■ この時期の心理状態

具体的な学部・学科の研究を進め、一層の学習意欲を喚起させなければならない時期ではありますが、受験や卒業といったゴールはまだまだ先といった感があり、緊張感が薄らぐ人も少なくありません。また、学校行事に追われ、それに打ち込んできた人の中には、一種の「燃え尽き症候群」のような状態に陥っている人もいます。この時期の生徒の心理状態として次のようなことが考えられます。

- ① 決して満足な状態ではないが、これまでなんとかやれてきたので、この状態でなんとか切り抜けよう。
- ② 学習しないといけない、という意識は働くものの何から手をつけてよいかわからず、日々淡々と時間だけが過ぎていく。
- ③ 今、学習に専念してもどうせ時間が経つと忘れてしまうのだから、焦る必要はない。
- ④ 自分のすすみたい方向がわからず、進路に関する決断を先延ばしにする。
- ⑤ 部活動に傾ける情熱の比重が高く、進路や学習のことが後回しになっている。
- ⑥ 友人関係や異性間における悩みが原因で、勉強どころではない（交友関係に引きずられて本来の自分を見失ってしまっている）。
- ⑦ どうにかなるさという甘い考え方により、享乐的な生活に陥ってしまっている。

この時期の心理状態は他にも考えられますが、一つの事例に当てはまるような者はむしろ少なく、複数の心理状態が重なり合って、様々な行動や態度という形で表面化してきます。例えば、授業中にボーッとしたり居眠りをする場合、忠告を素直に聞き入れない場合、頭髪や服装などの乱れや学校の規則を守れない場合、時には学校以外の場所に自分の居場所を求める場合など、さまざまな形で見受けられます。

元来、自己肯定的で前向きな場合は、軽微な「中だるみ」に陥っていても適切な進路指導や助言が与えられると、目を輝かせる場合が多いものです。しかしながら、問題となるのは「どうせ……」と自己を否定的にとらえたり、進学など自分の将来に全くといって無関心な場合です。時には、毅然とした態度で接することも大切です。それが人柄からにじみ出る教育愛であれば、そして親身になって将来を生かすようなものであれば、信頼の念を抱くはずですし、そのような信念のもと血の通うものを心がけたいものです。授業の中で、面談の中で、立ち話の中で、そのような生徒たちが目を輝かせるような場面を作るように努力したいものです。どうか、ご家庭でもよろしくお願いいたします。

「今の自分、これからの自分」を中心に個人面談の光景を目にします。将来について、今一度親子で話し合い、お互いに協力していける体制を確認していただきたいのです。もし、わからないことが出てきたら、担任、進路に連絡し相談してください。すぐに解決することができれば、子どもに安心感を与えることができるのですから……。

■ 3年生の後ろ姿に学ぶ！

今年を振り返り、落ち着いた気持ちで、現在の3年生の動きに目を向け、1年後の自分を具体化させてほしいものです。そのために、これからやるべきことを考えてみてほしいです。文章に書き留めてみるのも効果的でしょう。この時期3年生は推薦入試の結果、一般入試の準備にと慌ただしくなっています。推薦入試のシステムや基準などをふまえ、1年生の成績と2年前期の成績をもとに実際に現時点での評定を計算してみると、日々の取り組みや冬休みの過ごし方に変化が現れてくるのではないのでしょうか。ただ、推薦入試に関しては、評定などの成績だけでなく、人物・性格・クラブ活動などの実績や取り組みなど総合面での評価になりますし、日々の生活態度についても考えなければなりません。

3年生対象に1年前を振り返らせ、アンケート「2年生のこの時期どうあるべきか」の結果をみると、「英語と数学をしっかりとっておくこと。共通テストの内容はほとんどが1・2年生で習うところ。苦手分野を確実に克服しておくこと、共通テスト対策がスムーズにいく」「単語力のアップは高3の1年間だけでは不可能。地道に英単語のボキャブラリーを増やしておくべき」「文系なら理系の、理系なら文系の教科の基本をしっかりとっておくこと。自分は理系だったため、3年になると古典の授業が大変だった」「3年生までに体力をつけておいた方が何かと有利。体育系の部活はバリバリやろう!!」「自分の場合、もっといろいろな本を読んでおけばよかったと思う。高1・2の時は忙しいと思っていたが、今の方が忙しい……」などの言葉が目につきます。また、2年生のこの時期には、自分のあるべき姿を見失い、進路に対しても投げやりな状態に陥っているのではと見受けられるケースもありますが、苦しみながらも自分と戦っている3年生の生の声、生の姿を、自分の耳で聴き、自分の目で見て、活路を見いだしてほしいものです。

■ 面談の事例から

「自分の興味のあること、好きなことを将来の職業にしたい」といった希望は、決して悪いことではありません。むしろ率直で素直な意見であると思われます。それだけに、「夢物語」といった感で簡単に受け流さないようにしたいものです。しかしながら、視点として大切なことは、「実際には好きなことばかりやるのが仕事ではない」し、「現実の社会ではそれだけではやっていけない」ということです。こうしたことは、話して聴かせることも大切ですが、むしろ「家庭」「学校」という「疑似社会」の中で、役割を与えて自己を見つめ直し、自己のあり方や考える場を作らせることが大切ではないかと思います。そうした過程の中で、「大人になること」＝「責任を負うこと」といった発想を培いたいものです。そうでなければ、自分の将来を「他者との関わり」や「責任」といったものから切り離し、興味本位で安易な進路選択を行いかねません。「前向きに生きる姿勢」が感じられる人は、幼い頃からなりたいた職業を自分の中で暖めながら、意欲的に「生き」、「学ぶ」姿勢を忘れていません。ともすれば、「自分にとってこの学習や活動は必要、不必要」と打算的に考えがちですが、特殊な職業や受け皿の狭い職種を希望する生徒こそ、「生きる姿勢」と「学ぶ姿勢」を忘れてほしくないものですし、また、そのような視点で指導していくことが大切なことと思われます。

■ 「研修旅行前健康調査票」提出のお願い

研修旅行参加同意書・動植物アレルギー調査票の提出にご協力をいただきありがとうございます。旅行中の食事に関わる食物、動植物アレルギーについては旅行会社へ一任し、関係各所への連絡徹底をお願いしました。また、旅行会社担当者と直接コンタクトをとりたいと申し出のある保護者の方へは、旅行会社担当者から連絡が入りますのでよろしくお願いいたします。なお、同様に申し出を希望される保護者の方は、担任までご連絡ください。

今回提出していただきます「研修旅行前健康調査票」は、研修旅行前のご子女の健康状態を把握し、旅行中の健康管理及び緊急時に役立てるためのものです。旅行中は担任が管理し、研修旅行の目的以外には一切使用いたしません。ご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。